

## 臨床研究の実施に関する情報公開

金沢医科大学病院では、研究倫理審査委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施しています。

研究課題名	外来透析患者における非透析時の運動に対して行動変容に至った要因の検討
研究機関名	金沢医科大学病院
研究責任者	金沢医科大学病院 看護部 5階西 生野 順子
研究期間	倫理審査委員会承認日 ~ 2021年11月30日
対象者	2020年9月~2021年3月までの期間に当院の血液浄化センターに外来通院され血液浄化療法を受けた患者25名中、非透析時運動療法について運動療法を6か月継続した患者さん。
当該研究の意義・目的	<p>透析患者の高齢化が進み、長期間透析を行うことにより心不全や低血圧等の合併症の発生や疲労感、抑うつ感、認知機能障害などによる身体機能、運動諸機能の低下やQOLの低下を招き、さらに身体機能の低下を助長するといった悪循環に陥ります。透析患者における運動療法は、運動耐容能、歩行機能、身体的QOL、うつ状態や認知機能障害の改善効果を示唆する結果も報告され、施行可能な患者に対して積極的に考慮すべきと考えられています。日本透析医学会の“わが国の慢性透析療法の現状”の2018年の調査で、運動習慣の結果では、慢性維持透析患者は、どの年齢層でも運動習慣が「なし、ほとんどしない」が最多であり6~8割を占めていました。このような背景のもと、2018年日本腎臓リハビリテーション学会から発行された腎臓リハビリテーションガイドラインの中で「透析中の運動に比較して、非透析日の非監視下の運動療法は脱落しやすいが、運動耐容能の改善効果はより大きかった。」とする報告もあります。透析患者の運動療法への看護介入は、人員不足や認識不足、システム不足など様々な課題があるとされています。</p> <p>当センターでは、2020年4月より外来透析患者の転倒予防やADL維持のために運動療法について支援しています。ADL、IADL、日常生活活動内容、一週間の活動時間、臥床時間について確認した上で、2020年9月末より患者自身が非透析時に運動を行って頂き、運動療法を継続できるように支援を開始しました。その結果、2020年6月時点で外来透析患者25名中15名(6割)は運動の活動を行い、10名(4割)は運動の活動を行っていませんでしたが、2020年12月時点では、23名中20名(8割以上)が運動の活動を行うようになりました。</p> <p>そこで今回、8割以上の方が非透析時での運動の活動を行うようになった要因と約2割の方が運動の活動を行えていなかった要因について運動療法の支援内容に関連する因子や行動変容に影響する因子であるせん妄や認知機能の低下の有無も含めて検討・解明する事で、今後の透析中、非透析時双方での運動療法の取り組みが期待されるのではないかと考えました。</p>
方法および研究で利用する試料・情報について	本研究は、電子カルテより患者の属性(年齢、性別、疾患、透析歴、透析時間、家族背景)、心胸比、採血結果と運動開始前と6か月後の透析前後の臥位の血圧差、握力、下腿周囲長の値、また、認知度、抑うつ状態、運動実施状況と運動療法の意識についてアンケート調査で情報収集し、得られたデータから非透析時の運動に対する行動変容の要因を解析します。得られたデータは本研究のために使用させていただきます。研究によって得られた知的財産の所有権は研究組織および研究者に属します。
外部への資料・情報の提供	外部への提供はありません。

個人情報の開示に係る手続き	個人情報の開示に係る手続きは、下記の問合せ先にご相談ください。
資料の閲覧について	あなたからのご要望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、この研究の計画や方法についての関連資料をご覧いただくことができますのでお申し出下さい。
問合せ先	<p>その他、この研究に関するお問合わせは、下記へご連絡ください。</p> <p>金沢医科大学病院 看護部 5階西 生野 順子</p> <p>住所：石川県河北郡内灘町大学1-1</p> <p>☎：（代表）076-286-3511内線（4580）</p>

作成日： 2021年04月30日